

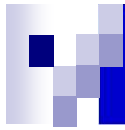
令和6年12月17日
令和6年度第5回報道機関との勉強会

1. 福岡県西方沖の地震を振り返る

【注】 本資料は、各社内限りでお願いします。

福岡管区気象台
地震津波対策調整官

- 「福岡県西方沖の地震」の概要
- 「気象庁(台)の対応」の概要



「福岡県西方沖」の地震の概要 ～地震(活動)および被害～

地震発生前の地震活動状況

福岡県の地震活動概況（2004年）

平成17年1月5日
福岡管区気象台

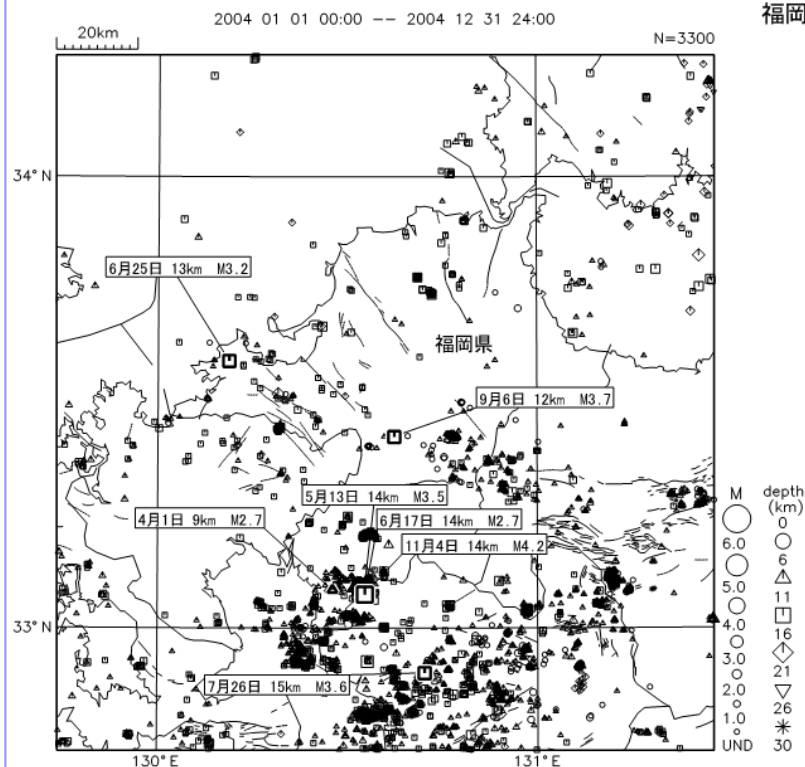


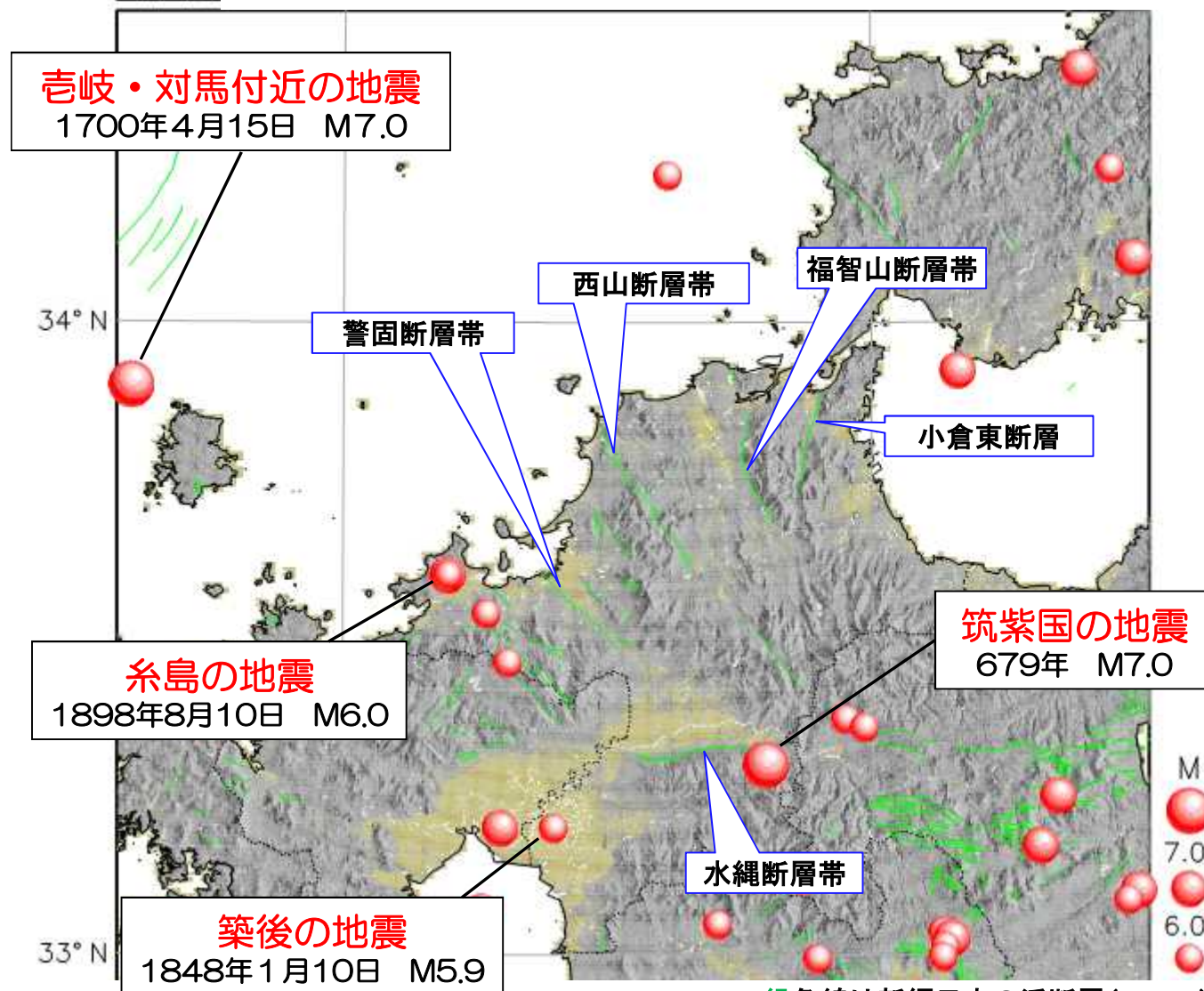
図1 震央分布図（2004年 1月1日～12月31日、深さ30km以浅）
福岡県内で震度1以上を観測した地震にコメントをつけた。

日本のどこでも地震に見舞われる可能性がある、でも、
福岡では“大きな地震が起きない”と言われていた??...



福岡県周辺の過去の主な被害地震と活断層

20km 「福岡県西方沖の地震」以前の主な地震の位置を図示



679年筑紫国の地震

家屋の被害のほか、長さ10kmほどの地割れが生じた。水縄(みのう)断層帯の活動による可能性。

1700年壱岐・対馬の地震

壱岐で家屋の大半が崩壊。朝鮮半島でも被害。

1848年筑後の地震

柳川で家屋の倒壊などの被害。

1898年糸島の地震

負傷者3名、家屋の破損、道路や堤防の破損が多数発生。

出典:地震調査研究推進本部「日本の地震活動」

・緑色線は新編日本の活断層(1991)による活断層の位置

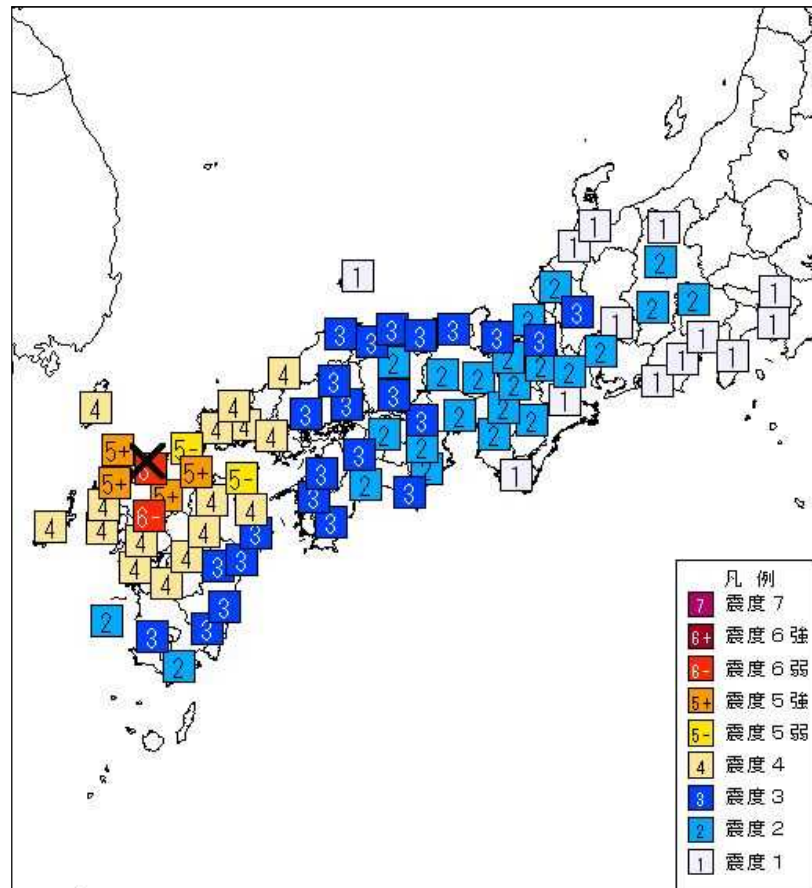
知られていなかっただけ? ...。周辺で被害地震は起きていた...

2005年3月20日 福岡県西方沖の地震 M7.0

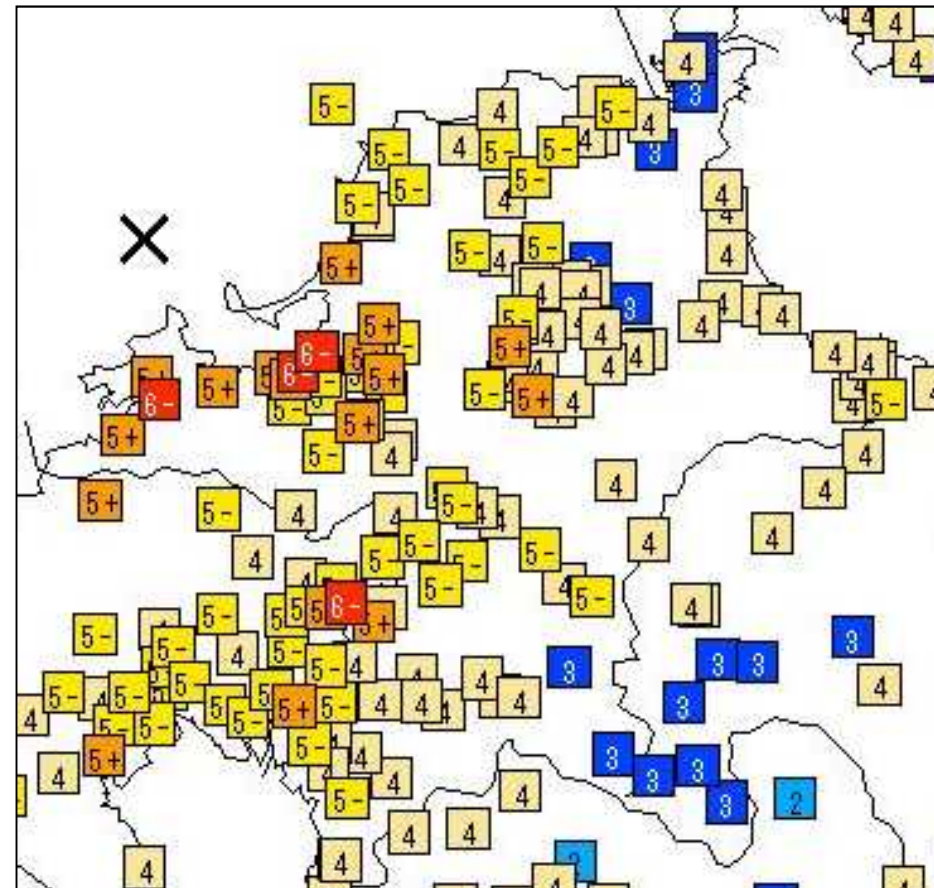
(現在の震央地名は福岡県北西沖)

地震発生時刻: 10時53分40.3秒

3月20日は日曜・春分の日でした



地域別震度分布図



観測点別震度分布図

- 福岡県の福岡市、糸島市(当時、前原市)、佐賀県のみやき町で震度6弱を観測。
- 10時57分「津波注意」の津波注意報発表、観測されず12時00分解除

M7.0の地震の地震波形（福岡管区気象台）

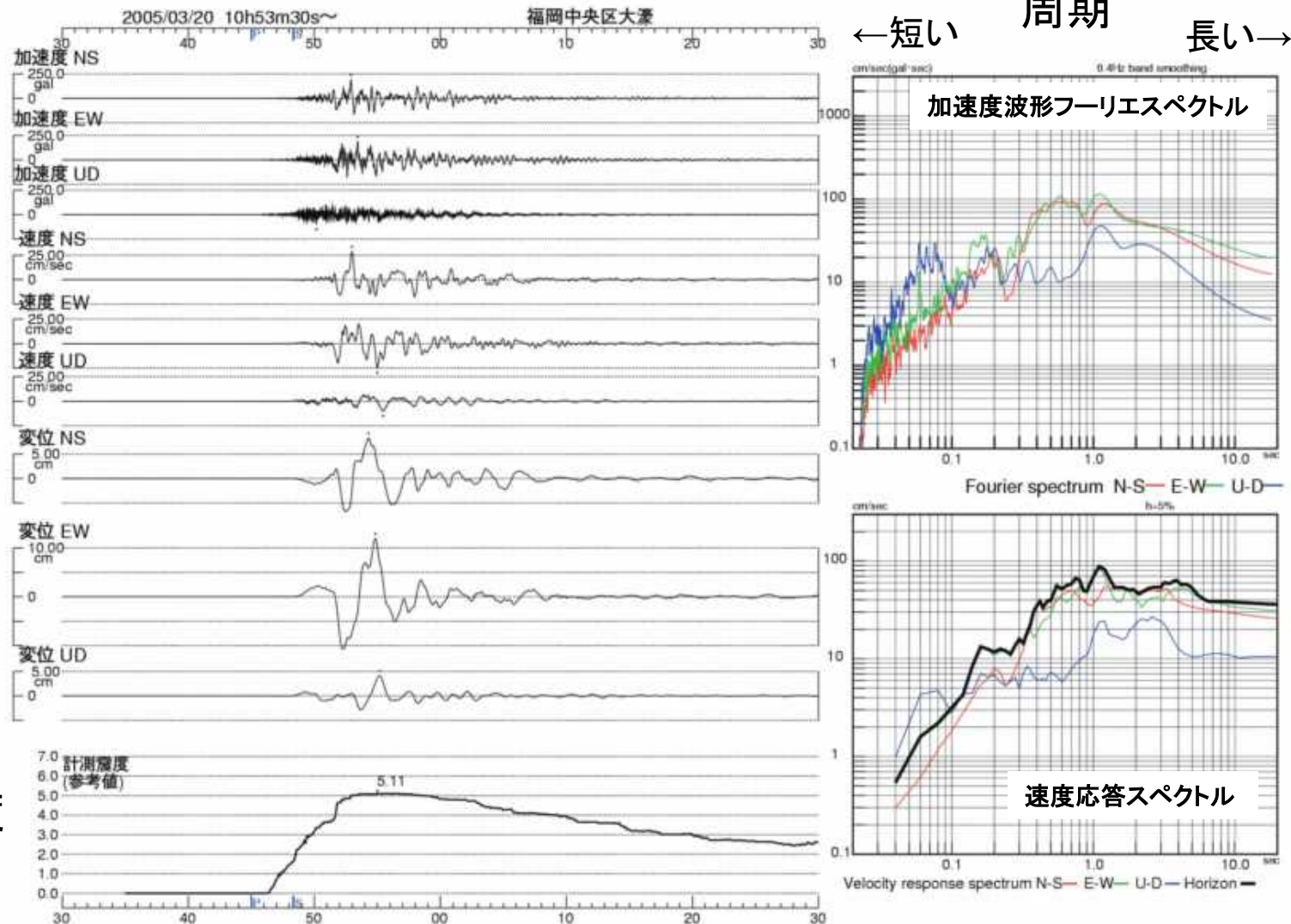
P S

加速度

速度

変位

計測震度
(参考値)

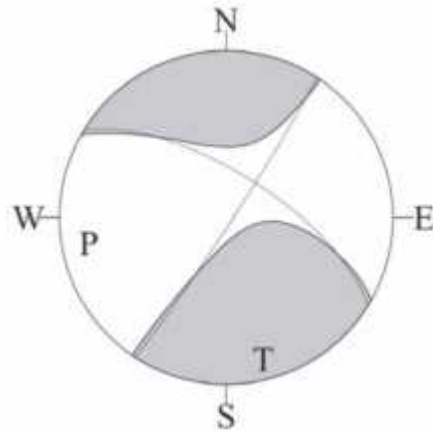


震度5強を観測した福岡管区気象台での波形記録

※ 詳細は、気象庁技術報告 第130号
「平成17年(2005年)福岡県西方沖の地震調査報告」参照

M7.0の地震の発震機構解と震源過程

発震機構解 (CMT解)

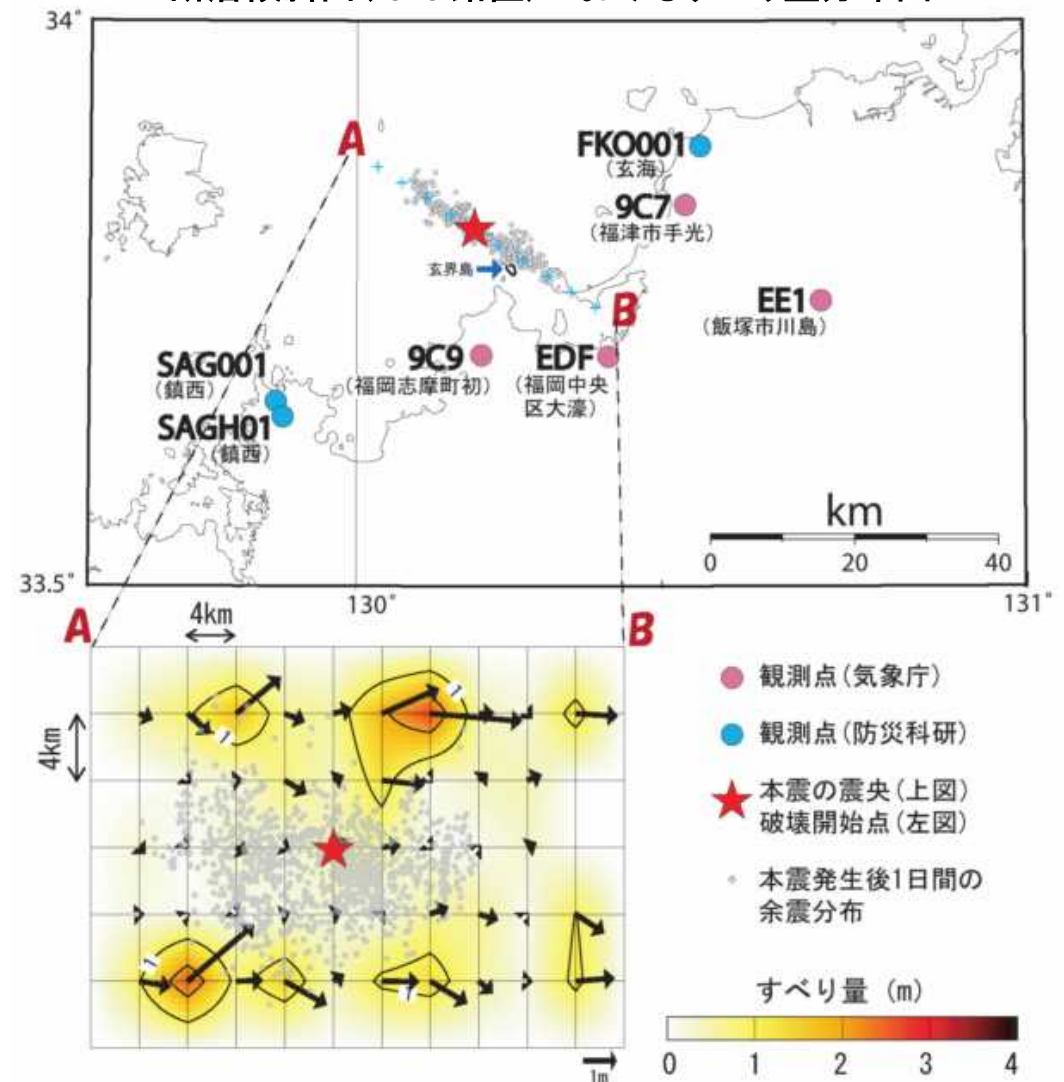


東北東—西南西方向に圧力
軸を持つ横ずれ断層型

- ・セントロイドの深さ 10km
- ・Mw6.7

近地地震波形解析による震源過程

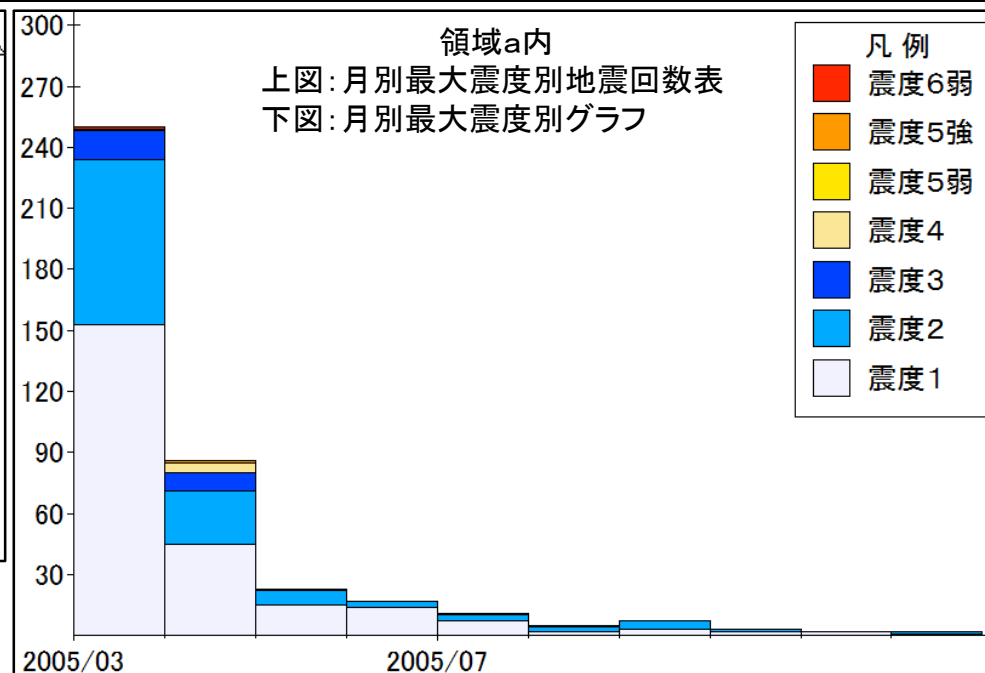
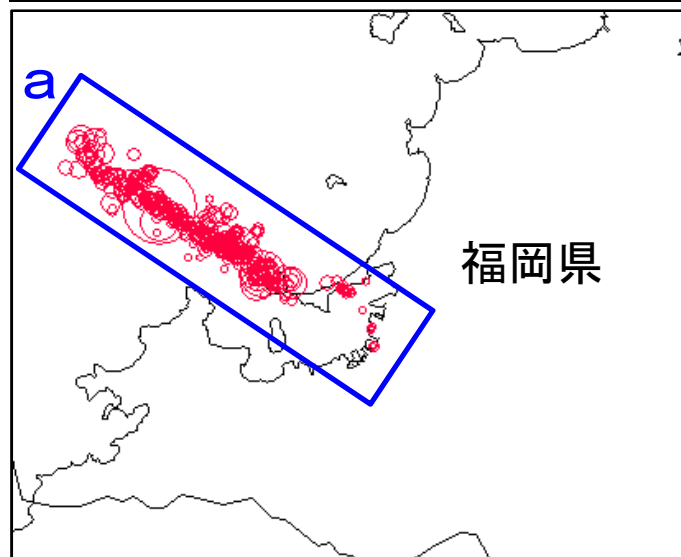
解析に用いた観測点分布及び
断層傾斜面(ほぼ鉛直)におけるすべり量分布図



※ 詳細は、気象庁技術報告 第130号
「平成17年(2005年)福岡県西方沖の地震調査報告」参照

<参考>最大震度別地震回数表(2005年3月20日～12月31日)

	震度 1	震度 2	震度 3	震度 4	震度5-	震度5+	震度6-	震度6+	震度 7	合計
2005年3月	153	81	14	1	0	0	1	0	0	250
4月	45	26	9	5	0	1	0	0	0	86
5月	15	7	0	1	0	0	0	0	0	23
6月	14	3	0	0	0	0	0	0	0	17
7月	7	3	1	0	0	0	0	0	0	11
8月	2	2	1	0	0	0	0	0	0	5
9月	3	4	0	0	0	0	0	0	0	7
10月	2	1	0	0	0	0	0	0	0	3
11月	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
12月	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
合計	244	128	25	7	0	1	1	0	0	406



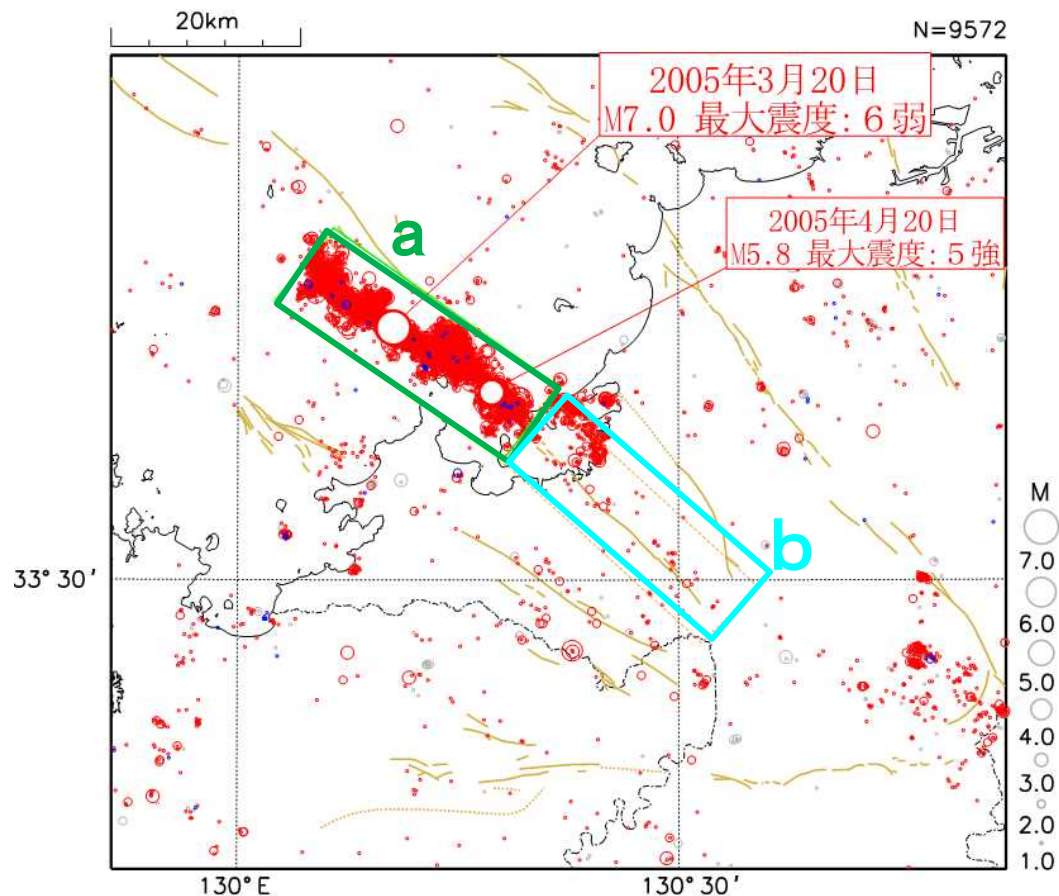
地震前後の地震活動状況（警固断層帯周辺）

【データ期間】 2000年10月1日～2024年11月30日

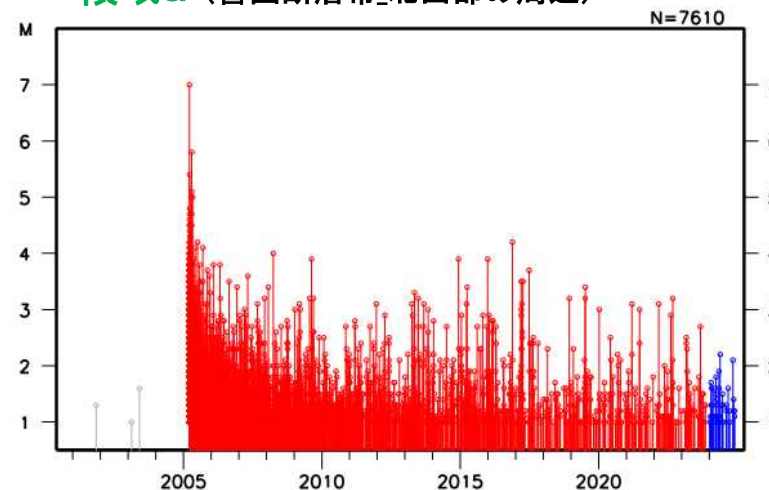
灰色：2020年10月1日から、2005年3月20日のM7.0の地震の前まで

赤色：2005年3月20日のM7.0の地震以降、2023年12月31日まで

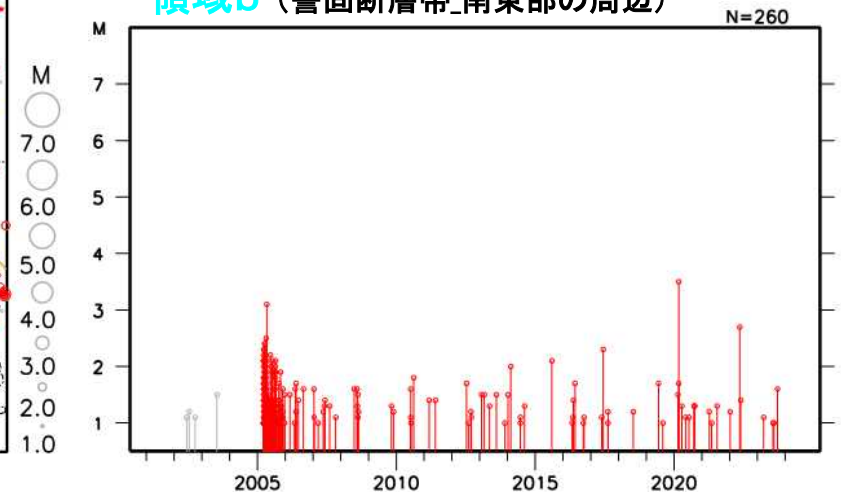
青色：2024年1月1日から2024年11月30日まで



領域a（警固断層帯_北西部の周辺）



領域b（警固断層帯_南東部の周辺）



- a: 北西部周辺: 2005年の地震後の活動がまだ続いていて、従前の状態に戻っていない
- b: 南東部周辺: 2005年の地震直後は、博多湾奥で地震活動が見られたが、それ以後は規模の小さな地震が時々発生している状況

<参考> 「福岡県西方沖の地震」の評価

【地震調査研究推進本部地震調査委員会(臨時会:平成17年3月21日開催)による評価】

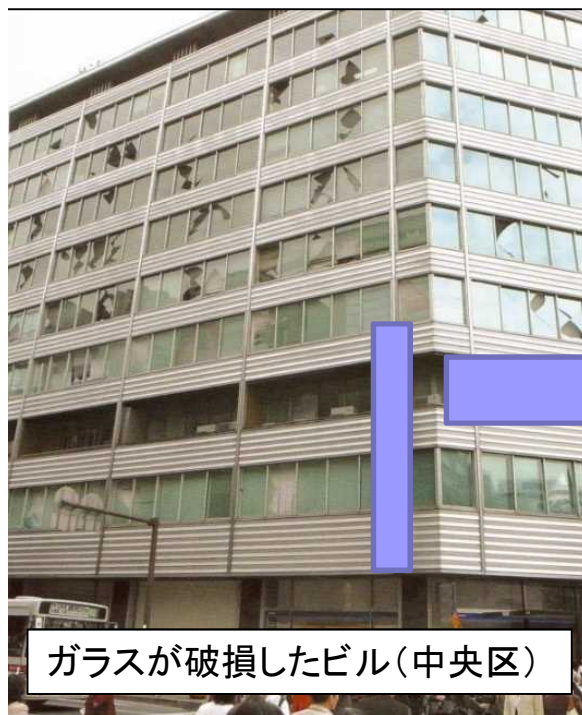
- 3月20日10時53分頃に福岡県西方沖の深さ約10kmでマグニチュード(M)7.0(暫定)の地震が発生し、福岡県と佐賀県で最大震度6弱を観測した。地震の発生状況から、これまでの活動はM7.0の地震を本震とする本震－余震型であると考えられる。これらの地震は、北西－南東方向に長さ約25kmに分布している。本震の発震機構は東西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。余震分布と本震の発震機構から推定される震源断層は、北西－南東方向のほぼ鉛直な断層面を持つ左横ずれ断層である。3月21日12時までの最大の余震は、20日19時52分頃のM4.7(暫定)の地震(最大震度2)で、余震域の北西端付近で発生した。
- GPS 観測の結果によると、今回の地震に伴い、福岡観測点(福岡県福岡市東区)では南西に約17 cm、前原(まえばる)観測点(福岡県前原市)では南に約8cm移動するなど福岡県を中心に変動が観測された。これらの観測結果は本震の発震機構と調和的である。
- 今回の活動域周辺で発生した M7以上の地震は、1700年の壱岐・対馬付近の地震(M7)が知られているのみである。その他の過去の活動としては、1898年の糸島の地震(M6.0, M5.8)、1929年と1930年に福岡県西部でそれぞれ M5.1、M5.0の地震が発生しているが、それ以降M5を超える地震は発生していない。
- 余震域の北東側には、余震分布とほぼ同じ方向に延びる長さ数kmの活断層が2カ所に分布する。また、福岡県北部には、北西－南東方向に延びる活断層が複数存在し、これらの活断層のうち、福岡市から筑紫野市にかけて延びる警固(けご)断層が余震域の南東延長付近に位置している。
- 3月21日16時から3日以内に、M5.5(震度5弱ところによっては震度5強程度)以上が発生する確率は約10%と推定される。

福岡県西方沖の地震による被害①

総務省消防庁「災害情報」(平成21年6月12日13時00分、確定報)による
<https://www.fdma.go.jp/disaster/info/assets/post398.pdf>

人的被害			住家被害		
死者	重傷者	軽傷者	全壊	半壊	一部破損
人	人	人	棟	棟	棟
1	198	1,006	144	353	9,338

【補足】福岡市において75歳女性がブロック塀の下敷きとなり、全身打撲により死亡
玄界島での被害: 負傷者10名、住家全壊107棟、半壊46棟、一部破損61棟



ガラスが破損したビル(中央区)



歩道に散乱したガラス



陥没した歩道(中央ふ頭地区)

福岡県西方沖の地震による被害②



倒壊した家屋(玄界島)



石垣の崩壊(玄界島)



液状化による噴砂現象(早良区百道浜)

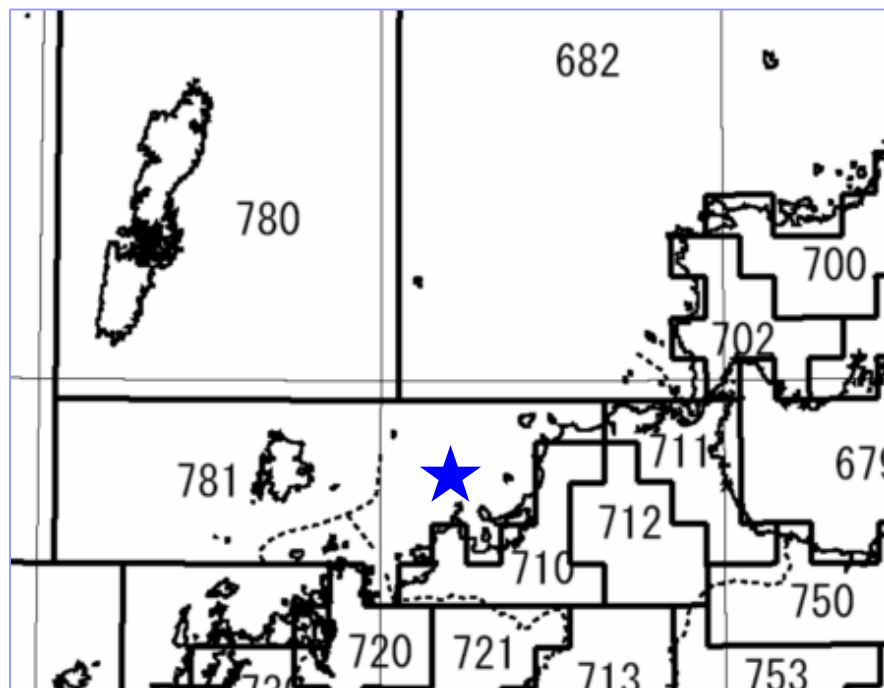


地盤沈下による亀裂
(中央区)

参考：震央地名の図（今昔）

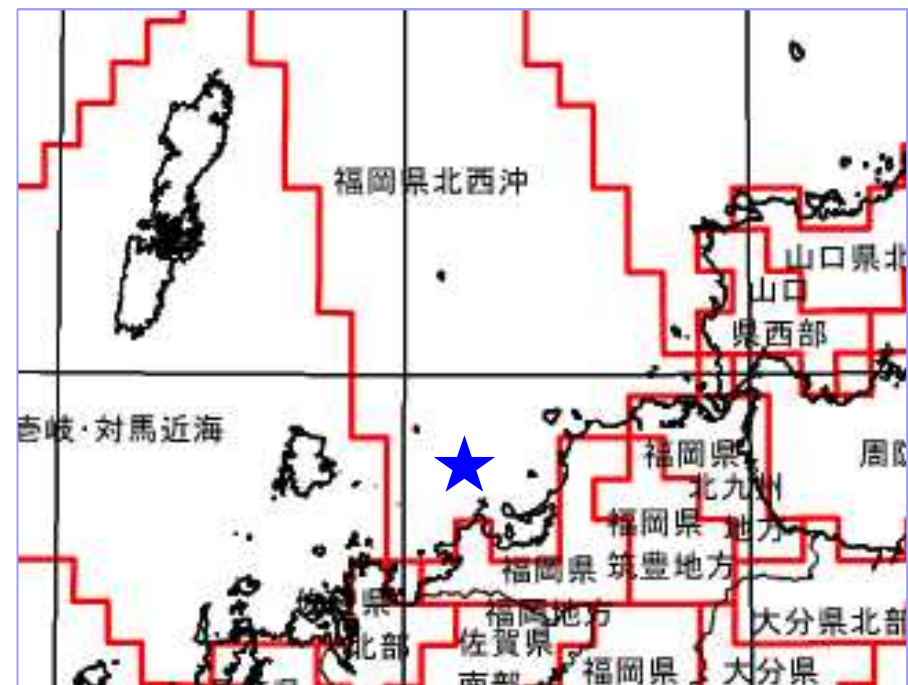
- 気象庁では、震度が観測された地域の名称（以下、震度の地域名称）と、震源の場所を示す名称（以下、震央地名）を地震情報等で発表。内陸については、震度の地域名称と震央地名を共通の区域とし、海域の震央地名については、緯度・経度線に沿った区分。利用者にとって分かりやすいものとなるよう、適宜見直しを実施。
- 平成18年（2006年）10月2日より、内陸については、地域の防災活動に適したものとすること、できる限り気象予報で用いる地域細分と合わせることに、**海域については、概ね沿岸線に沿った領域とし分かりやすいものとする、地震発生の地理的分布を考慮すること**を基本として見直しを行い、地元自治体等と調整を経て、一部変更を実施。

従前の震央地名と境界線

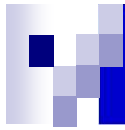


781: 福岡県西方沖
710: 福岡県福岡地方

変更後（現在）の震央地名と境界線



※地図の図法が異なることに注意



気象庁(台)の対応

福岡県西方沖の地震における気象庁の対応

3月20日当日



福岡管区気象台
Fukuoka Regional Headquarters
Japan Meteorological Agency

★地震発生10時53分

10時55分 震度速報(最大震度6弱)

10時57分 「津波注意」津波注意報

10時59分 地震情報(第1号)、11時02分(2号)、11時14分(3号)以降適宜発表

12時00分 「津波注意」津波注意報解除(津波観測なし)

12時00分 福岡管区気象台共同記者取材

12時00分 地震解説資料第1号発表、以降適宜発表

共同記者取材
地震解説資料発表
現地調査

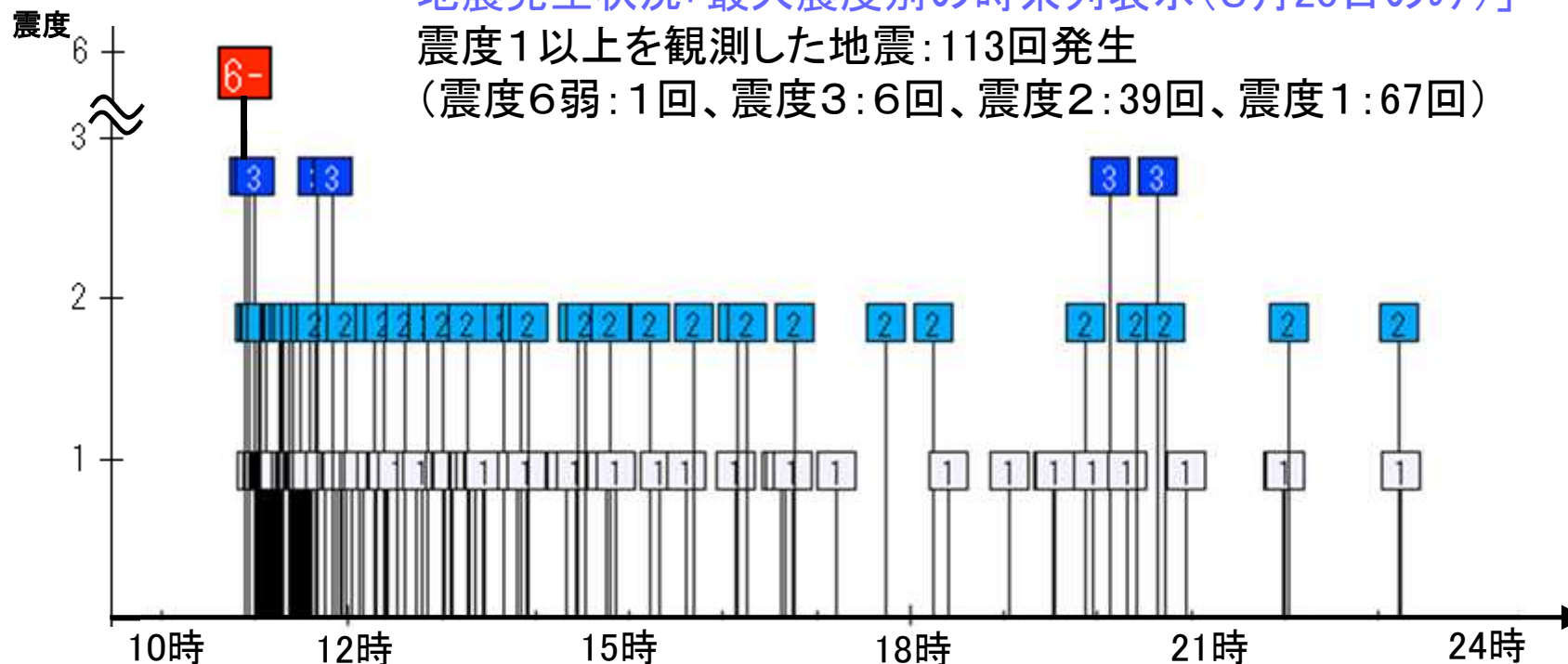
福岡県日本海沿岸
杵岐・対馬

津波注意報

地震発生状況「最大震度別の時系列表示(3月20日のみ)」

震度1以上を観測した地震:113回発生

(震度6弱:1回、震度3:6回、震度2:39回、震度1:67回)



福岡管区気象台の当時の主な対応①

【平成17年3月20日】

 10時53分 地震発生→「警戒体制」 →当時、緊急地震速報運用前！

10時55分 震度速報(6弱) →56分 2号(5強・5弱更新)

10時57分 「津波注意」発表(福岡県日本海沿岸、壱岐・対馬)

10時59分 地震情報1号 →11時02分:2号、11時14分:3号

11時45分 災害警戒本部会議開催

12時00分 「津波注意」解除発表 ※津波観測なし

12時00分 地震解説資料1号発表→以後、随時、続報発表(20日5号まで)

12時00分～ 共同取材1回目(4社) →今なら、緊急記者会見！(本庁の後)

12時30分 本庁報道発表第1報(記者会見) →以後、夕方2報、翌日3報

13時00分 非常災害対策本部に移行 →今なら、地震同期で「非常体制」

13時50分 現地調査班出発(2班4名:福岡市東部～志賀島、市西部糸島半島)

13時50分～ 共同取材2回目(5社) ↘JMA-MOT(20081017～)創設前

15時00分 第1回非常災害対策本部会議開催

16時00分 関係機関向け防災メール(20日夜から22日の天気の見通し)

17時00分 政府調査団対応(福岡県庁に2名派遣)

17時30分 第2回非常災害対策本部会議開催 ↘JETT(20180501～)創設前

福岡で発表
2
中
枢
化
前

福岡管区気象台の当時の主な対応②

【平成17年3月21日】

- 06時30分 「玄界島」現地調査班出発(本庁・管区機動班)
- 10時00分 関係機関向けに災害時支援資料提供開始(1日2回、10・16時)
- 11時30分 第3回非常災害対策本部会議開催
- 13時00分 地震本部地震調査委員会臨時会開催→夕方評価公表
- 13時20分 九地整へり職員搭乗(2名、上空から被害状況確認)
- 14時30分～ 記者会見(11社、カメラ3社) →2回目は24日実施
- 16時00分 大雨警報・注意報暫定基準運用開始 →当時、土砂警運用前!
- 17時20分 第4回非常災害対策本部会議開催 (この年の9月1日、鹿児島県から運用)
- 18時00分 「玄界島」臨時震度計運用開始

【平成17年3月22日】

- 08時30分 福岡市玄界島現場本部へ職員1名派遣
- 11時00分 第5回非常災害対策本部会議開催 →JETT(20180501～)創設前
- 11時00分 福岡市玄界島現場本部に気象解説用端末設置
→翌23日 島民避難所(九電記念体育館)にも設置
- 19時00分 災害時支援資料(地震活動・気象情報)をホームページ掲載開始
→翌23日に災害支援ページに拡大

【平成17年3月25日】

・・福岡市防災へり職員搭乗(2名、玄界島現地調査等

【平成17年3月26日】

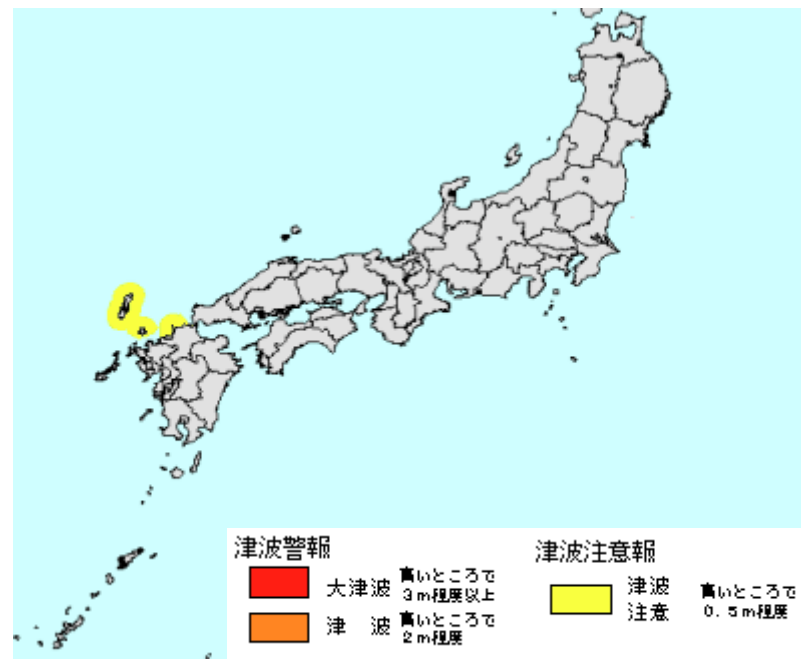
・・小泉首相玄界島・避難所視察(職員1名待機)

当時と現在、主な対応の違い

	当 時	現 在	備 考
地震津波情報発表	福岡	本庁・大阪	平成21年3月2日から 2中枢化
緊急地震速報発表	なし	あり	平成19年10月1日 一般向け提供開始
津波警報等内容	旧内容	新内容	平成25年3月7日 運用開始
報道対応(当日)	共同取材	記者会見	日曜・祝日で会見対応 できず(福岡)
現地調査等	あり	あり	JMA-MOT創設 平成20年10月17日
リエゾン派遣等	あり	あり	JETT創設 平成30年5月1日
大雨警報等基準変更	旧基準	現基準	当時、土砂災害警戒 情報運用前
災害時支援資料	あり	あり	

地震津波情報の発表

- 2005年3月当時、福岡管区気象台に地震津波監視システム(ETOS)が置かれ、24時間監視により、地震津波情報を発表
 - ➡参考:平成21年(2009年)3月2日から情報発表業務は本庁・大阪集約
- 地震発生当時、地震当番5交替2シート、特殊日勤1シート、火山当番5交替1シートの4名勤務(祝日のため、官執務勤務者不在・参集対応)。



当時発表した津波注意報
(気象庁ホームページ画面)



地震現業室のETOS端末
(写真は2009年2月のもの、地震当時と同じ配置)

共同取材・記者会見

気象庁本庁 報道発表

- ・3月20日12時30分、16時30分
- ・3月21日14時30分
- ・3月24日14時30分

福岡管区気象台共同取材

- ・3月20日12時～
(4社)
- ・3月20日13時50分～
(5社)

福岡管区気象台記者会見

- ・3月21日14時～
(11社、カメラ3台)
- ・3月24日14時30分～
(11社、2機関)

※当日、日曜日＋祝日(春分の日)

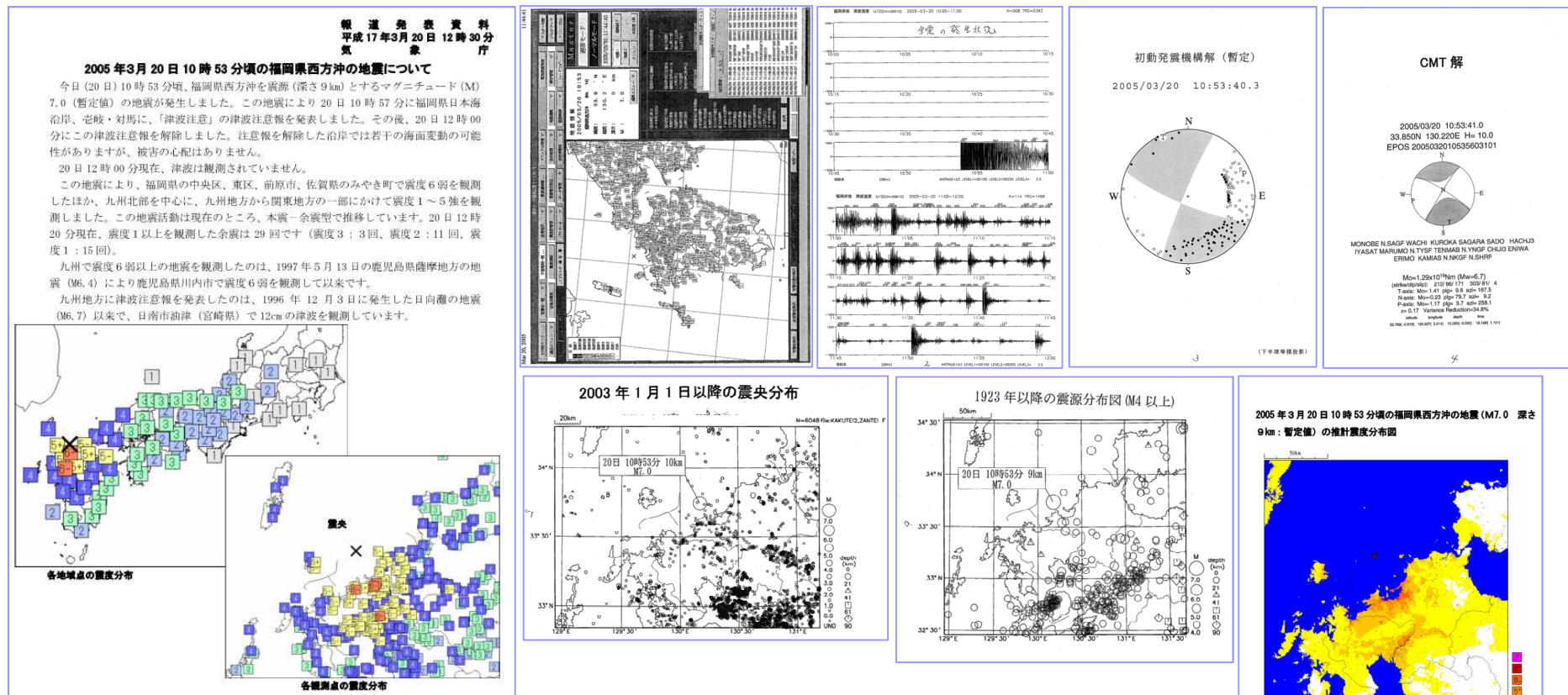
→気象台にかけつけた報道機関に対応するため、共同取材
で対応

・・・その後の地震緊急時の報道対応改善へ

発表した報道発表資料（気象庁本庁）の例

- 気象庁本庁は報道発表資料を（地震活動の状況等を記載した資料）を第4報（平成17年3月24日）まで発表
 - ・同年4月20日の最大震度5強の地震時にも発表

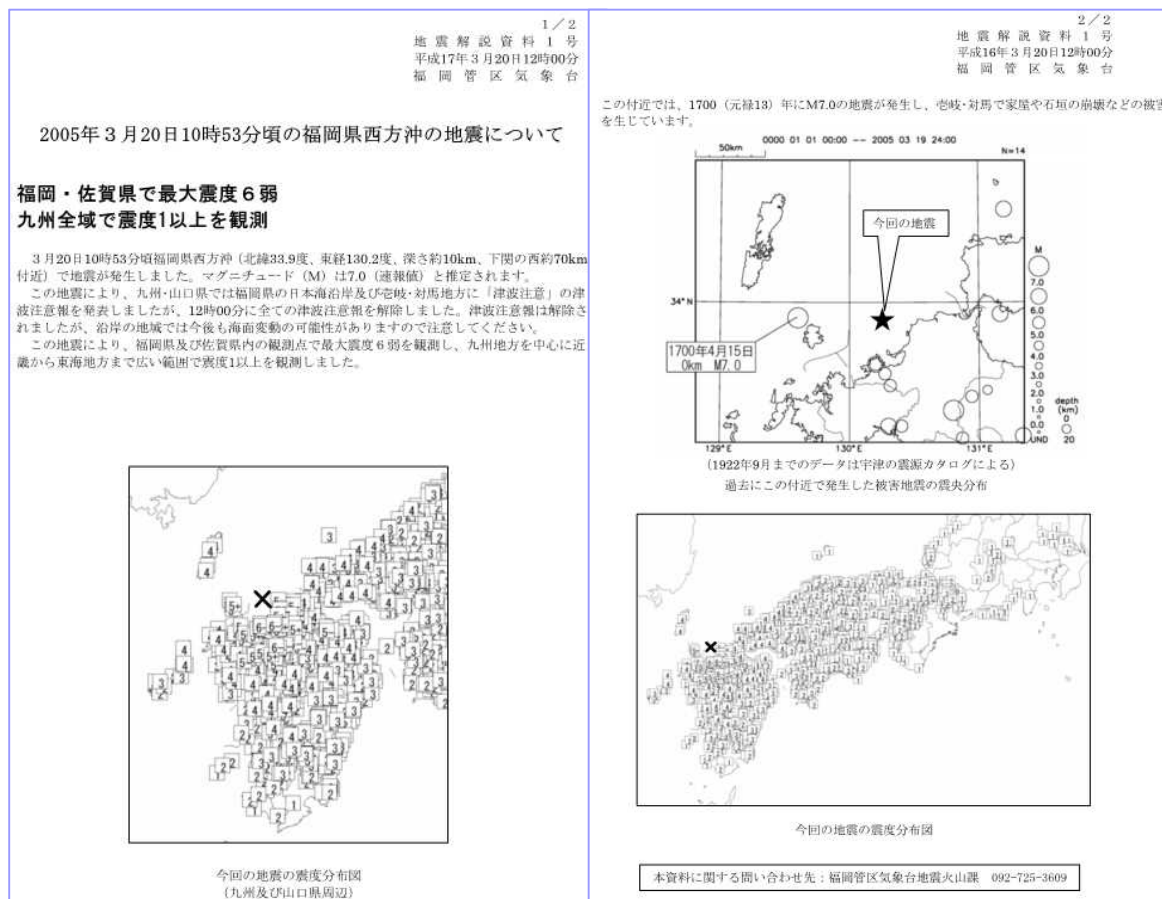
第1報（3月20日12時30分） 本庁会見に使用



現在と体裁・文字の大きさ等が大きく異なり、「防災上の呼びかけ」というより「解説」重視の資料・・・

➤ 福岡管区気象台は地震解説資料(地震活動の状況等を記載した資料)を第28号(平成17年5月1日)まで発表

第1号(3月20日12時) 共同取材に使用



第6号(3月21日)



現在と体裁・文字の大きさ等が大きく異なり、「防災上の呼びかけ」というより「解説」重視の資料・・・

大雨注意報・警報基準の暫定的な変更

➤ 3月20日16時から運用・・・現在と基準が異なります！

報道発表資料
平成17年3月21日
気象庁

福岡県西方沖を震源とする地震に伴う
大雨注意報・警報基準の暫定的な変更について

地震による地盤の緩みを考慮し、大雨注意報・警報について、福岡県福岡地方は現行の約5割、福岡県筑豊地方、筑後地方、佐賀県（鹿島地区を除く）、長崎県壱岐は約7割に基準を引き下げて運用します。

平成17年3月20日10時53分頃に発生した福岡県西方沖を震源とする地震により、福岡県福岡市、前原市、佐賀県みやき町では震度6弱を観測し、また福岡県、佐賀県、長崎県の広い範囲で震度5強を観測されました。

これらの地域では、一部で崖崩れ等が発生しており、また地盤等に亀裂が入っている可能性があるため、雨による土砂災害の危険性が通常より高くなっています。

今後しばらくは、土砂災害が起こりやすい状態が続くと予想されるので、二次災害防止の観点から、平成17年3月21日16時から当分の間、大雨注意報・警報について現行基準より引き下げた暫定基準を設けて運用します。（別添参照）

なお、今後、雨量と土砂災害との関連を調査し、基準変更の必要性を随時検討します。



図1 暫定基準を適用する地域

1. 福岡県福岡地方、筑豊地方、筑後地方の大雨注意報・警報の暫定基準					
一次細分 区域名	二次細分 区域名	注意報警報 の種類	要素	暫定基準	現行基準
福岡地方	福岡地方	大雨注意報	R1	15mm	30mm
			R3	30mm	60mm
			R24	50mm [九千部山 70mm]	100mm [九千部山 130mm]
		大雨警報	R1	25mm	50mm
			R3	50mm	100mm
			R24	80mm [九千部山 100mm]	150mm [九千部山 200mm]
筑豊地方	筑豊地方	大雨注意報	R1	20mm	30mm
			R3	40mm	60mm
			R24	70mm	100mm
		大雨警報	R1	35mm	50mm
			R3	70mm	100mm
			R24	110mm	150mm
筑後地方	筑後北部	大雨注意報	R1	20mm	30mm
			R3	40mm	60mm
			R24	70mm	100mm
		大雨警報	R1	35mm	50mm
			R3	70mm	100mm
			R24	110mm	150mm
	筑後南部	大雨注意報	R1	20mm	30mm
			R3	40mm	60mm
			R24	70mm	100mm
		大雨警報	R1	35mm	50mm
			R3	70mm	100mm
			R24	110mm	150mm
北九州地方	北九州・ 遠賀地区	大雨注意報	R1	現行基準どおりで変更 ありません。	30mm
			R3		60mm
			R24		100mm
	京築	大雨警報	R1	現行基準どおりで変更 ありません。	50mm
			R3		100mm
			R24		150mm

注：R1、R3、R24は、それぞれ、1、3、24時間雨量を示します。

2. 長崎県壱岐の大雨注意報・警報の暫定基準					
一次細分 区域名	二次細分 区域名	注意報警報 の種類	要素	暫定基準	現行基準
壱岐・対馬	壱岐	大雨注意報	R1	20mm	30mm R24 80mm
			R3	40mm	60mm R24 80mm
			R24	90mm	120mm
		大雨警報	R1	30mm	40mm R24 120mm
			R3	60mm	80mm R24 120mm
			R24	150mm	200mm

注：R1、R3、R24は、それぞれ、1、3、24時間雨量を示します。

3. 佐賀県唐津地区、伊万里地区、鳥栖地区、佐賀多久地区、武雄地区の大雨注意報・警報の暫定基準					
一次細分 区域名	二次細分 区域名	注意報警報 の種類	要素	暫定基準	現行基準
北部	唐津地区	大雨注意報	R1	20mm	30mm
			R3	35mm	50mm
			R24	70mm	100mm
		大雨警報	R1	35mm	50mm
			R3	70mm	100mm
			R24	110mm	150mm
	伊万里地区	大雨注意報	R1	20mm	30mm
			R3	35mm	50mm
			R24	70mm	100mm
		大雨警報	R1	35mm	50mm
			R3	70mm	100mm
			R24	110mm	150mm
南部	佐賀多久地区	大雨注意報	R1	20mm	30mm
			R3	35mm	50mm
			R24	70mm	100mm
		大雨警報	R1	35mm	50mm
			R3	70mm	100mm
			R24	110mm	150mm
	鳥栖地区	大雨注意報	R1	20mm	30mm
			R3	35mm	50mm
			R24	70mm	100mm
		大雨警報	R1	35mm	50mm
			R3	70mm	100mm
			R24	110mm	150mm
	武雄地区	大雨注意報	R1	20mm	30mm
			R3	35mm	50mm
			R24	70mm	100mm
		大雨警報	R1	35mm	50mm
			R3	70mm	100mm
			R24	110mm	150mm
鹿島地区	鹿島地区	大雨注意報	R1	現行基準のとおりで、変更はありません。	30mm
			R3		50mm
			R24		100mm [多良岳 130mm]
		大雨警報	R1	現行基準のとおりで、変更はありません。	50mm
			R3		100mm
			R24		150mm [多良岳 200mm]

注：R1、R3、R24は、それぞれ、1、3、24時間雨量を示します。

- 同年6月6日：福岡地方以外は通常基準に戻す
- 同年8月1日：福岡地方も通常基準に戻す

現地調査の実施状況

- 気象庁本庁及び福岡管区気象台:地震発生当日(3月20日)に地震機動観測班を震源に近く、かつ被害の大きかった福岡県西区玄界島へ派遣。翌21日この地震に伴う被害状況等の調査並びに臨時の計測震度計設置を実施。
 - 福岡管区気象台:震度6弱を観測した福岡市中央区、東区、前原市及び震度5強を観測した福岡市早良区の震度観測施設やその周辺、被害の大きかった福岡市西区玄界島、福岡市東区の志賀島の被害調査を3月20日から21日にかけて実施(玄界島の調査は本庁機動観測班と合同実施)。同21日、九州地方整備局のヘリにより玄界島、志賀島から百道浜(福岡市早良区)にかけての博多湾海岸部を上空から確認。
 - 佐賀地方気象台:被害のあったみやき町、久保田町、小城市、白石町、武雄市、唐津市神集島について3月20日から22日にかけて調査を実施。
 - 大分地方気象台:被害のあった中津市、日田市、天瀬町について3月20日から24日にかけて調査を実施。
- ※市町村名は当時



- 3月21日午後 九州地方整備局のヘリコプターに搭乗し、上空からの確認を実施



玄界島の家屋被害



ももち浜の液状化跡

- 3月25日 福岡市消防局のヘリコプターに搭乗し、上空からの確認を実施

- 3月21日 玄界島漁村センターに機動用震度計を臨時設置し、18時から運用(平成23年1月6日12時まで地震情報に活用)

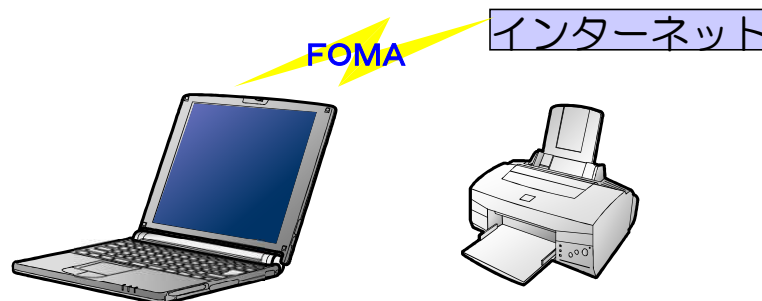


臨時震度計設置・設定作業

- なお、九州大学も周辺に臨時の地震計を複数地点設置。
→気象庁でも震源位置の精査に活用➡各種資料に活用

出張解説端末設置

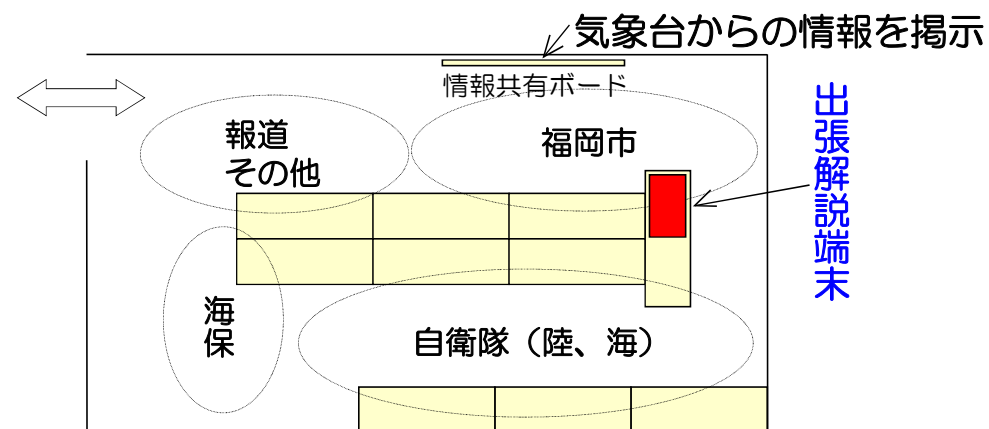
3月22日11時～4月30日まで



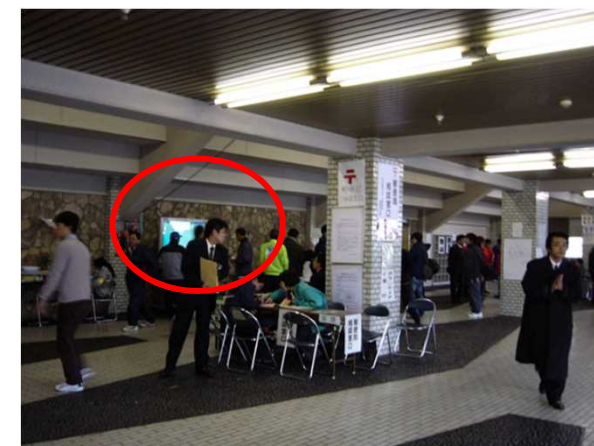
- 気象台から職員派遣(3月22日～適宜)時
 - ・予報課等からの支援資料の受信(メール添付)
 - ・防災情報提供装置、気象庁HP等を使った解説
- 気象台職員不在時(福岡市の職員が使用)
 - ・支援資料の受信(福岡市が関係機関に伝達)
 - ・気象庁HP等での情報収集
 - ・福岡管区気象台とのメール連絡



福岡市玄界島現場本部の様子



現場本部レイアウト概要



避難所(九州電力記念体育館)

避難者への**気象情報や地震活動状況の提供を目的**として、気象台設置のインフォメーションシステムを**3月23日から4月26日まで設置**。

- ・構成:タッチパネル式50インチ大型ディスプレイ・ノートPC(FOMAカード装着)
- ・提供情報:福岡管区気象台と気象庁のHPのみ(他サイト閲覧不可)
- ・運用:24時間

政府調査団・首相視察対応

政府調査団 平成17年3月20日～21日

- ✓ 先遣隊：福岡県庁入り 3月20日15時20分
→17時～福岡管区気象台職員2名派遣

3月21日09時30分～12時 現地調査
・対応：本庁地震火山部即時地震情報調整官
県庁
→九電体育館(玄界島避難所)
→福岡市役所(状況報告等)
→(ガラス破損のあった)福岡ビル
→県庁

防災担当大臣視察 平成17年3月24日

首相視察 平成17年3月26日



玄界島および避難所(九電記念体育館)視察後、避難所前で記者団の取材に答える小泉首相(当時)

※福岡管区気象台は、職員1名待機

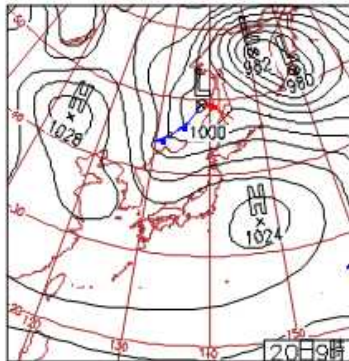
＜補足＞

首相視察を受けて、翌3月27日から玄界島への避難住民帰宅オペレーション開始

→気象状況の支援強化(予報課)

<参考> 当時の天気概況

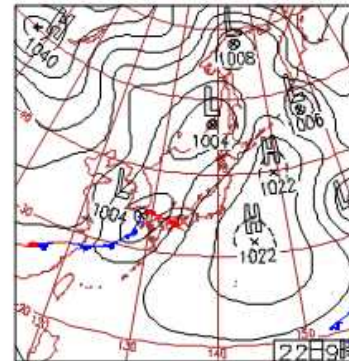
・当時の地上天気図(2005年3月20日～24日)



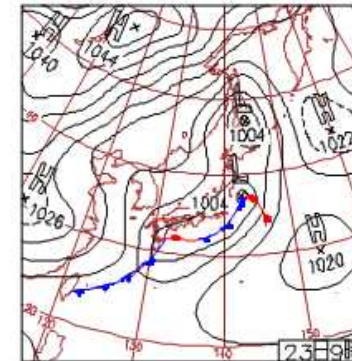
20日(日)福岡・佐賀県で震度6弱
関東の東海上に高気圧。日本海を気圧の谷が東進。全国的に曇りで、西日本の太平洋側で所々雨。福岡県西方沖でM7.0の地震。福岡市・佐賀県みやき町で震度6弱。



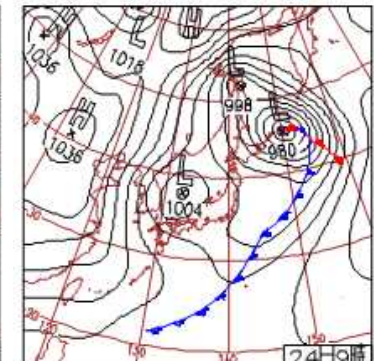
21日(月)全国的に晴天
移動性高気圧に広く覆われ、全国的に晴れ。空気乾燥し東京都千代田区の最小湿度は9%で3月としての記録1位タイ。



22日(火)本州を低気圧東進
前線を伴った低気圧が本州を東進。東・西日本は雨。福岡・佐賀県の被災地にも雨。南西諸島や北日本は曇り。和歌山県串本町でモモが開花。

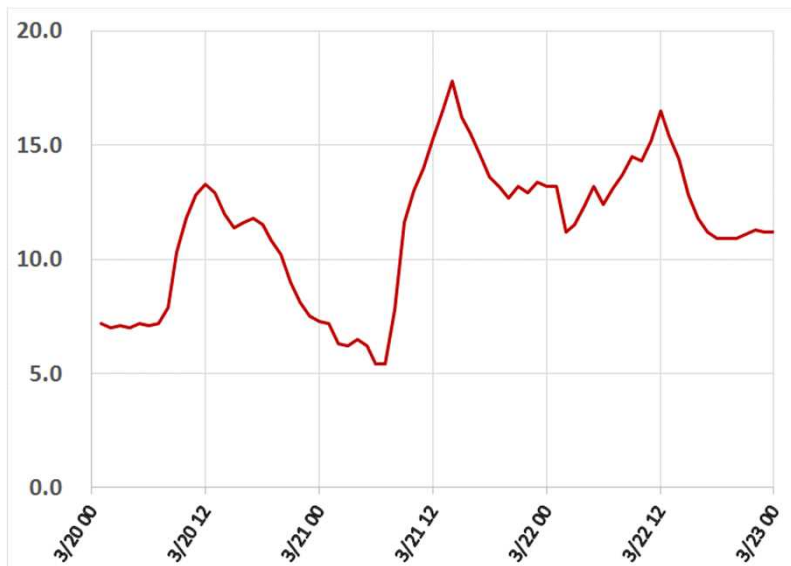


23日(水)西表島 非常に激しい雨
本州南岸に前線が延び、西日本から東日本にかけて雨。南西諸島を寒冷前線が通過、午前中を中心に雨。八重山諸島西表島では1時間に76mmの非常に激しい雨。

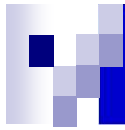


24日(木)熊本市でヒョウ
日本海を低気圧が発達しながら東進。九州から雨が降りだし、午後は近畿から東海、夜には東日本に移る。北日本は概ね晴れ。熊本市ではヒョウを観測。

・当時の気象状況(福岡管区气象台)



日	最高	最低	天気概況(昼、夜)	
20	14.2	6.8	曇一時晴	晴
21	18.7	4.8	晴時々曇	曇後雨
22	16.7	10.4	雨一時曇	曇時々雨
23	13.8	8.7	雨時々晴	晴
24	10.7	4.1	晴時々雨、雷を伴う	晴時々曇一時みぞれ

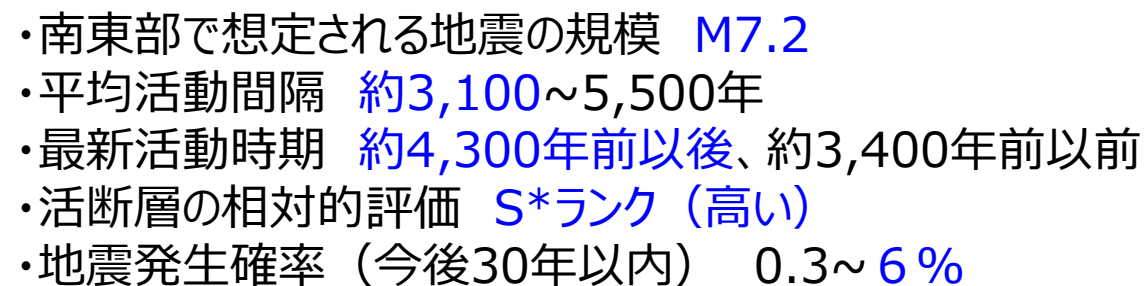


警戒断層帯...

福岡県西方沖の地震と警固断層帯・・・

警固断層帯：地震本部が行う長期評価対象「主要活断層帯」への道

- 警固断層帯については、その陸域部に關し、その存在は従来から知られていた
- 阪神・淡路大震災を受け設立された地震本部の総合基本施策（第1期）に基づき、M7.0以上の地震を発生させる可能性のある長さ20km以上の活断層を「地震に関する基盤的調査観測計画（平成9年8月29日）」の中で「主要98活断層帯」として選定（**警固断層帯は含まれず**）、海溝型地震とあわせて「長期評価」を行い、「全国を概観した地震動予測地図」の公表を目指す
- 地震本部からの委託交付金で、福岡県が警固断層帯を調査（平成8年）
- その後の調査結果を基に、長さ20km以上の12活断層（警固断層帯含む）の追加を政策委員会と地震調査委員会で最終検討中に、福岡県西方沖の地震が発生（平成17年3月20日）
 - ・地震発生の日前の同年3月9日で98断層帯の長期評価がすべて公表終了
 - ・全国を概観した地震動予測地図の公表は同年3月23日
- 平成17年8月30日の本部会議で決定→**主要110活断層帯（警固断層帯含む）**
「今後の重点的調査観測についてー活断層で発生する地震及び海溝型地震を対象とした重点的調査観測、活断層の今後の基盤的調査観測の進め方ー」として公表



- ✓ 今回、振り返った内容の中にも、このあとご説明する「特設サイト」のコンテンツとなっているものがございます。
- ✓ 福岡県西方沖の地震から20年となる機会を捉えた普及啓発・周知広報について、報道機関の皆さまと一緒に進めていければと考えておりますので、ご協力方よろしく願いいたします。